

歩いて 見て 考えて 楽しもう

大和川つけかえの 史跡探訪ガイドブック



柏原・八尾コース



八尾市 安中新田会所跡旧植田家住宅



柏原市 大和川治水記念公園 中甚兵衛像

歩いて 見て 考えて 楽しもう

大和川つけかえの史跡探訪ガイドブック

柏原・八尾コース

もくじ

●柏原コース

- (1) 柏原市立歴史資料館で学ぼう 4
- (2) 大和川河川敷を歩こう 6
 - ☆コラム「外来種の生物とは」
- (3) つけかえ地点——大和川治水記念公園と二番樋 8
- (4) つけかえ地点の大和川 10
 - ☆コラム「大和川の一番樋」
 - ☆コラム「天然アユがもどってきた」

足をのばせば

- (5) アクアロードに沿って 12
- (6) 奈良街道に沿って 14
- 柏原コース探訪マップ** 16

●八尾コース

- (7) 安中新田会所跡 旧植田家住宅を訪ねる 18
- (8) 安中5丁目公園とアクアフレンズ 20
- (9) まちにうるおいとやすらぎ 成法せせらぎの小径 22
- (10) 大和川の堤防だった八尾高校の狐山 23
- (11) 久宝寺の船着場 24
 - ☆コラム「柏原船と剣先船」
- (12) 久宝寺の寺内町を歩こう 26

足をのばせば

- (13) 竜華水みらいセンター 28
- 八尾コース探訪マップ** 30

はじめに

大和川は、奈良盆地の水を集め、柏原から北へ流れていました。洪水に苦しむ農民の願いと運動が続き、大和川のつけかえがようやく始められたのは約50年後で、実現したのは1704年です。つけかえによって利益が出ると、幕府が判断したからだったようです。

大和川のつけかえは、大阪の地形をかえ、人々のくらしや産業をかえてきました。

元の川筋でも新田が開発され、棉花栽培や河内木綿による経済活動がすすみました。

新しい川筋では洪水や土砂の堆積とたたかいながら、河口に新田や新地をひろげていきます。

見なれたまちの水路や坂道、建物や街並みが、大和川つけかえの歴史を伝えています。

「百聞は一見に如かず」ということわざがあります。見上げる 麓や足元の小石にも先人の労苦がしのべれます。まちの現状や市民のまちづくりの取り組みにもふれて、わがまちへの想いが深くなることでしょう。

ご家族やグループで現地を訪ね、新たな発見をお楽しみください。遠足など、先生方・子ども達の学習にもお役に立てば幸いです。



河内木綿 わたの花

「わたしたちの大和川」より

柏原市立歴史資料館で学ぼう

古代には、大阪から奈良へ、一番楽に行ける便利なルートが大和川か川沿いの道でした。人々が行きかい、文化・学問・政治の舞台となり、柏原は大切な場所となっていました。

奈良盆地の水が1本の川になって大阪に流れ、柏原で石川と合流します。大和川つけかえの前も後も、大和川との共存が柏原にとって特別大きな意味を持ってきました。



高井田史跡公園を通りぬけると歴史資料館に着きます



2015年の企画展ポスター

に寄贈されています。鹿皮の陣羽織や中甚兵衛の肖像画、天井川になっていく様子を記録した絵図や洪水による堤防決壊箇所を書き込み続けた「堤切れ所」の図面、幕府に嘆願・陳情した文書の控えなど……50年近い運動の苦労がしのばれます。

中甚兵衛像は、2000年に大和川治水公園に甚兵衛像をつくる前に、九兵衛さんをモデルに10分の1モデルをつくられたものです。

柏原市立歴史資料館では、古代から現代までの柏原の歴史や民俗を興味深く展示されていますが、とりわけ大和川つけかえの資料が充実しています。1993年以来、毎年秋に大和川つけかえの企画展を続けています。100校以上の小学4年生が遠足でやってきて、館長さんのお話を聞いてから見学します。裏に「水」の字が散りばめられた陣羽織や中甚兵衛の直筆を熱心に見入っている子どもたちも多いようです。

「大和川学習」のセンター

中甚兵衛の実物資料が魅力

大和川つけかえの運動を推進した中甚兵衛の文書や図面・遺品などが、10代目^{なかいくへえ}中九兵衛さんから当歴史資料館



2016年の企画展の入り口

大和川の企画展のシーズンでない時にも、柏原市立歴史資料館発行のパンフレットや冊子とともに、中九兵衛さんの『甚兵衛と大和川』『甚兵衛と大和川 ジュニア版』ほか、『わたしたちの大



2015年の企画展より——右下に堤切れ所の図面がひろげられています

和川 補充版』や『2016年度改訂版CDR』、『大和川かるた』なども入手できます。

大和川つけかえの史跡探訪はこの資料館からのスタートをおすすめします。

月曜と年末年始休館(祝日開館)9:30~16:30 入館無料 柏原市高井田 1598-1

☎072-976-3430

史跡高井田横穴公園

J R 高井田駅のすぐ北側に公園の入り口があり、遊歩道に沿って横穴を見学できます。桜や紅葉など四季の自然にふれる散歩道やお弁当ひろばとして人気です。

高井田横穴は、6世紀から7世紀頃に、山の斜面に洞窟のような穴を掘って造られたお墓です。人や鳥、馬などの線刻壁画のある横穴もあります。毎年5月と10月に古墳内部の公開も行われ、ツアーガイドもあります。

(日程など問い合わせは柏原市立歴史資料館に)

5世紀終わり頃に造られた高井田山古墳があり、全国で2例しか無い古代のアイロン(火のし)のほか、鏡や甲冑^{ちゆう}、たくさんの武器なども出土しています。



ゴンドラに乗った人を描いた線刻壁画
(史跡高井田横穴公園)

大和川河川敷を歩こう 四季の植物や鳥たち

春夏秋冬の河川敷でたくさんの動植物を観察することができます。双眼鏡があれば楽しさが倍増します。観察したことをノートやカメラに記録してみましょう。

中流・下流の河川敷の土壌には栄養分が多く植物が繁茂^{はんも}します。黄色い花の植物は赤信号の前ぶれで栄養分が多すぎる指標になります。最近^{さいきん}は外来種が多く在来種が駆逐^{くそく}されています。

河川敷にひろがる植物

春に繁茂しているのがセイヨウアブラナ(アブラナ科)で、つぼみと葉は塩ゆでや塩もみで美味しく食べられます。足元ではセイヨウタンポポ(キク科)が多く咲いています。

夏には在来種のクズ(マメ科)が河川敷を覆っています。花はピンクと赤紫色で美しいが、果実の鞘^{さや}は多くの毛^{お毛}に覆われています。根から葛粉を取ります。外来種のセイバンモロコシ(イネ科)が茂っていますが、若葉に青酸化合物が含まれているので動物は食べません。

秋には外来種のセイトカアワダチソウ(キク科)が目立ちます。根から他の植物を枯らす成分を出すので繁茂します。アレチウリ(ウリ科)は他の植物を覆って駆逐してしまい生態系を破壊するので特定外来種に指定されています。花は可憐^{かれん}で小さく虫媒^{ちゅうばい}花なのでセイウミツバチ等がきていますが、果実には鋭い刺^{とげ}状^{じょう}の剛毛^{ごうもう}がありこれが繁茂すると小動物が減少します。

冬枯れの足元でもオオイヌノフグリ(ゴマノハグサ科)の花が咲き、太陽の光をうけるため、地表に葉をひろげて春を待っています。



セイヨウアブラナ



セイヨウタンポポ



セイバンモロコシ



クズ



セイトカアワダチソウ



アレチウリ

川の中の野鳥たち

大和川に目をやれば、カルガモ・コサギ・チュウサギ・アオサギ・カワウ・ハシブトガラス等が魚を探している光景が見られます。

カワウは絶滅危惧種として保護されてきましたが、今は数が増えてアユが食べられる被害や、糞公害が問題になっています。



外来種の生物とは……もともとその地域にいなかったのに人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことを指します。外来生物法では海外から入ってきた生物に焦点を絞り、人間の移動や物流が盛んになり始めた明治時代以降に導入されたものを中心に対応しています。

日本の野外に生息する外国起源の生物の数はわかっているだけでも約 2000 種もあります。

外来種の中で、地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのあるものを、特に侵略的外来種といいます。

外来種が在来種の生き物を駆逐してしまうことにより、本来の生態系が乱され問題になっています。

外来生物被害予防三原則

1. **入れない**：悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に入れない
2. **捨てない**：飼っている外来生物を野外に捨てない
3. **拡げない**：野外にすでにいる外来生物を他の地域に拡げない

大和川つけかえ地点——大和川治水記念公園と二番樋

「大和川治水記念公園」の場所は築留^{つきどめ}と言われ、1704年に北に流れていた大和川を、堤を築いてせき止め、西へ流れを変えた所です。

中甚兵衛像

中甚兵衛^{なかじん べえ} (1639～1730) は「河内」といわれるほど氾濫^{はんらん}の多い大和川をつけかえる運動のリーダーでした。甚兵衛像は生誕 350 年を記念し、八尾の彫刻家高橋宏至氏が制作、柏原ライオンズクラブが寄贈しました。高さは 1.9m、陣羽織を着て工事図面を持ち、右手は指図するかのよう西の海の方を指しています。



中甚兵衛像

大和川付替二百五十年記念碑



大和川付替 250 年記念碑

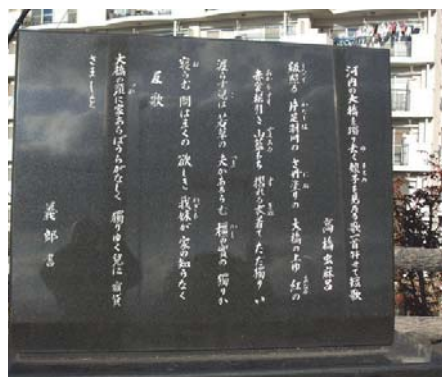
1955 年に大阪府が建てたものですが、文面にまちがいがあります。例えば、川中九兵衛が甚兵衛の父とされていますが、

法名^{ほうみょう}しか伝えられず、俗名も活動も不明です。甚兵衛の先祖も子孫も川中氏だった事実はありません。大和川つけかえの運動は、父親が亡くなってから大きくなっています。最初に運動を始めたという 3 人の名も実在した人ではありません。姫路藩が最後まで事業を行ったように書いていますが、姫路藩は藩主の病死で撤退し、工事は諸藩が分担しました。

これらの記述等がもとになって、大和川つけかえの歴史がまちがって伝わっていることに注意が必要です。

高橋虫麻呂の歌碑

奈良時代、片足羽河と呼ばれていた石川に河内大橋がかけられていました。今の近鉄柏原南口の東側と考えられています。万葉集に「綴照^{しなて}る片足羽河^{かたし}の丹塗^{はがわ}の大橋^{にぬり}の上ゆ^{おおはし} 紅^{うえ}の赤裳裾引き^{くれなゐ}…」



高橋虫麻呂歌碑

と赤い袴^{はかま}を着た女性が橋を渡っていく貴族文化が詠^よまれています。

大和川治水記念公園には、ほかにも「明治18年水害復興記念」など、歴史を伝える碑がたくさん並んでいます。

二番樋と築留土地改良区事務所



大和川の堤防・治水記念公園下の二番樋出口



大和川の二番樋取り入れ口

階段の下に大和川の水を長瀬川に引き入れるレンガ造りの築留二番樋があります。長さ49.1m、アーチの最大幅は157cmで、1888年に造られました。

水土里ネットつきどめ^{みどり}（築留土地改良^{つきどめとちかairyō}区）は、築留の樋や樋から流れ出る用水を管理している事務所です。

つけかえの時の樋を管理していた築留樋組^{つきどめひぐみ}をもとにする団体で、この水は、旧大和川地域の田畑の用水として現在も利用されています。



左が築留土地改良区。治水記念公園から撮影
二番樋から旧大和川・長瀬川に流れていきます

つけかえ地点の大和川



築留から大和川下流を望む 2017 年 1 月



大和川上流 2013 年 9 月の台風

大和川治水記念公園のある堤防が、大和川つけかえ地点です。この堤防から、上流の方（奈良県）や、石川が流れ込んでくる様子や下流の方（大阪市・堺市）を望むことができます。すぐ近くのリビエールホール大ホール 4 階展望ロビーから見ると、今の大和川の上流・対岸・下流の様子が手に取るように見えます。

旧大和川筋の様子は、大ホール 2 階ホワイエから見るすることができます。ここからも、二番樋やそこから流れ出す水の流れが見えます。

【ワークシート】

もとの大和川をさがせ！

大和川がつけかえられたところから北の地図です。今から 120 年前のもので
す。つけかえ前の大和川をさがして、ぬりつぶしましょう。



◎リビエールホールからの
見学は、事前の申込が必要で
す。

旧大和川の川筋は？

元の大和川の川筋は、昔の
地図や航空写真を見るとよ
く分かります。現在の住居表
示の載った東大阪市や八尾
市の都市地図でも、旧大和川
がどこを流れていたのかを
想像することができます。

柏原市立歴史資料館のワークシートより

大和川の一番樋

二番樋・三番樋が作られたのはつけかえ翌年の 1705 年です。つけかえた時の一番樋はどこにあったのでしょうか。

当時の大和川は、川幅が今の大和川よりずっと広く、柏原市役所やリビエールホールのあるところも河川敷でした。そのため、築留のもっと上流にあった樋から水を取り込み、堤防の外の水路に流し、その水を一番樋に取り込んでいました。一番樋に水を流した樋も、今では堤防の下に埋められていて、見るできません。

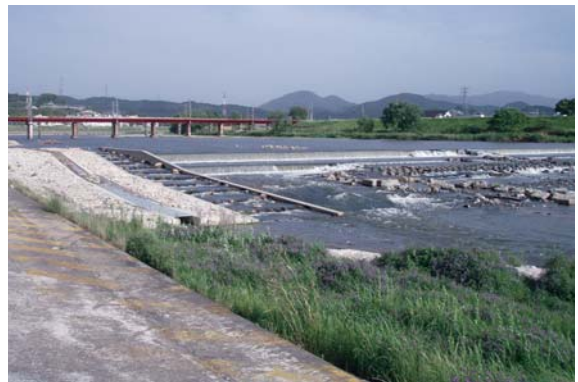
つけかえのすぐ後の川筋や水路、樋の場所は、柏原市の旧家に残る絵図や堺市博物館所蔵の「大和川筋図巻」^{やまとがわすじずかん}で見ることができ、川筋全部を載せた図録が発行されています。



2007 年大和川で見つかった仔アユ 7mm



2016 年下流の堺市浅香で見つかったアユ



2010 年に完成した柏原堰堤^{えんてい}の魚道
近鉄道明寺線鉄橋の下流側

天然アユがもどってきた

アユは川と海を行き来する回遊魚で、春になると海から川へ上ってきます。夏にかけては、川底の石などに生える苔^{こけ}などを食べて成長し、秋には卵を産んで親魚は一生を終わる 1 年魚です。卵からかえった仔^しアユは、海に下りて冬をこし、4 月ごろに川へもどります。

大和川にも、1955 年頃まではたくさんのアユが上っていましたが、その後はほとんど見られなくなっていました。

2004 年春に大和川下流で天然アユが見つかり、2007 年 11 月には、柏原市河内橋近くの砂利の中で仔アユになる直前の卵も見つかりました。大和川でアユがふえていることがわかったのです。

・・・足をのばせば・・・

アクアロードに沿って

さんばん ひ
▼三番樋からJR大和路線「柏原」駅へ



三番樋のモニュメント

つけかえ地点(築留)の現在の端が二番樋です。もう一方の端が三番樋ということになります。三番樋は、近鉄道明寺線の線路の手前の大きな木の下辺りにあります。

小さなモニュメントがあつ 金毘羅石灯籠
て、アクアロードの説明が書かれています。



近鉄柏原南口駅と国道 25 号線 左が大和川鉄橋

近くの大和川堤防の下に金毘羅石灯籠があります。新大和川ができた後にも剣先船が航行し、その安全を願って建てられたものです。

▼水路に沿った歩道 (アクアロード)

アクアロードを歩いて、JR大和路線柏原駅まで行くことにしましょう。

少し行くと二番樋からきた水路と三番樋からきた水路が一つになるところがあります。水の中には、コイとフナが泳いでいます。

水路は線路の下をくぐり、大和路線の東側を進みます。線路を踏みきりで越え、アクアロード沿いに進みましょう。アクアロードには、「柏原かるた」の絵札がタイルで紹介されています。

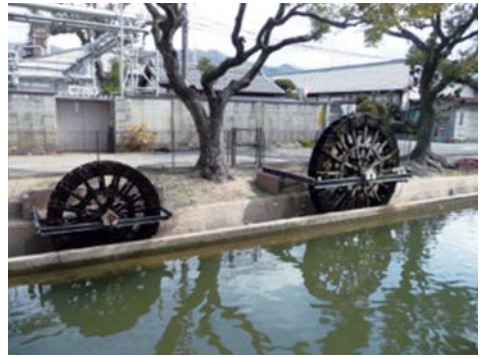
川筋に見とれていると、JR柏原駅に曲がるポイントを見落としてしまいそうです。



水路の上に大和路線の鉄橋があります

▼岡村製油の前にある水車

J R 柏原駅に曲がらず、ずっとアクアロード沿いに進むと、岡村製油の工場の前にさしかかります。岡村製油は、今でも綿実油めんじつ ゆを作っています。(原料は、和綿ではなく、西洋綿ですが) おもしろいのは、この工場の前の水路の中に、水車が2連動しているということです。昔は、水車の力で、綿実くたを絞しぼっていたからでしょう。



岡村製油の前の水車

▼長瀬川から玉串川が分岐する「二俣」へ

アクアロードをさらに進むと、二俣ふたまたにつきます。昔は、この辺りで旧大和川が二つに分かれました。この辺りに二俣新田ふたまたしんでんがありました。

長瀬川に沿ってさらに進み、外環状線の高架をくぐると、もうJ R 大和路しき線志紀の駅に着きます。



二俣
北の下流側から 左が玉串川 右が長瀬川

大和川に沿って

▼青地樋へ

三番樋からさらに国道沿いに行くと、近鉄道明寺線どうみょうのガード下をくぐります。

柏原南駅を越えさらに進むと、国道 25 号線の下に青地樋があります。この樋は、大和川つけかえの後に、旧大和川から水を得ていた平野川の水量を確保するために作られた樋です。

道明寺線の柏原南口駅から電車に乗ると一駅でJ R 柏原駅に着きます。この電車を利用するなら、道明寺行きに乗って、電車で大和川を渡りましょう。



青地樋
大和川からの水の取り入れ口

奈良街道に沿って

▼^{かしわらぶねふな}柏原船船だまり跡

J R 大和路線柏原駅から駅を西側に出て、突き当たった道路の西側に水路があります。その水路沿いに、北西へ徒歩約5分、柏原小学校の北側の道路を渡った本郷1丁目に、^{かしわらぶねふな}柏原船船だまり跡があります。児童公園になっていて、2004年に新しい石碑が建てられています。



船だまり跡の児童公園

柏原船とは、江戸時代の1636年から了意川（平野川）を利用して大坂と柏原の間に物資の運搬のために運航した川船のことで、1907年まで運航されました。農作物や肥料などを運ぶ重要な輸送機関だったのです。

児童公園から、水路を小さな橋で渡っていくと、奈良街道にでます。

▼三田家住宅

さらに北へ少し行くと今町1丁目で、重要文化財の^{さん}三田家住宅があります。内部の見学はできません。

現在の建物は、1766年から1768年に建てられたもので重要文化財に指定されています。



重要文化財 三田家住宅

大坂伏見呉服町で大文字屋という屋号で商売を始めた三田氏がこの地に移住し、^ほ干鰯^{しか}や油粕^{あぶらかす}などの肥料商や、柏原船の船仲間や地主として栄えました。

▼寺田家住宅

三田家住宅から北の奈良街道沿いに、登録有形文化財の寺田家住宅があります。内部の見学はできません。

寺田家住宅はおよそ江戸時代の中頃に建てられたもので、寺田氏は北条屋の屋号で油粕問屋や柏原船の営業を行っていました。敷地内には、土蔵、米蔵、南門、東門などが残されており、外板に柏原船の船板が使用されている内蔵と、離れを含め7件が国の登録有形文化財になっています。



登録有形文化財 寺田家住宅

▼旧大和川の河川跡

先の三田家住宅・寺田家住宅をさらに奈良街道沿いに北に行った所に
いままちぼち
今町墓地があります。

ここは、周囲よりも一段と高くなっており、旧大和川の左岸堤防に当たります。

J R 大和路線の柏原駅と志紀駅の間の電車から西側に見ることができます。



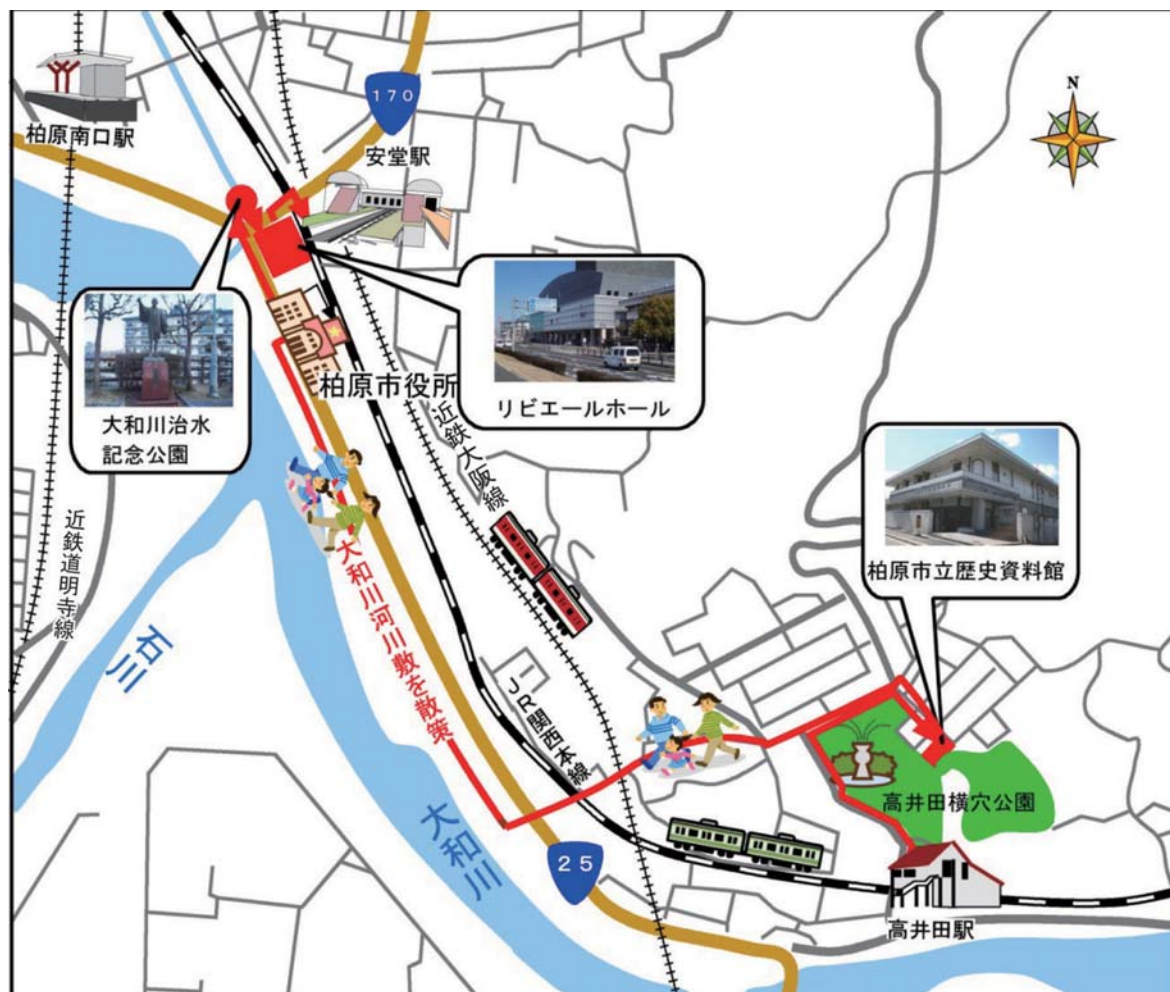
今町墓地の入り口

ます。このあたりの大和路線の線路は、周りより少し高くなっています。電車は、天井川だった旧大和川の河川敷を走っています。

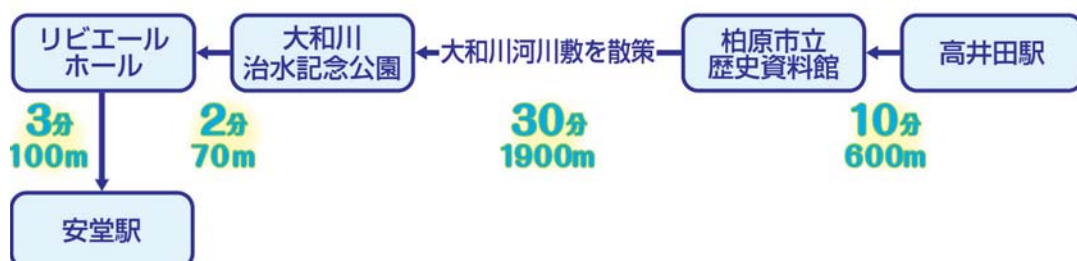
北に行けば、J R 大和路線の志紀しき駅に出ます。志紀駅は、柏原駅の一つ北側になります。

※柏原市教育委員会編集発行『河内柏原見聞録』（2007 年発行）を参考にさせていただきました。

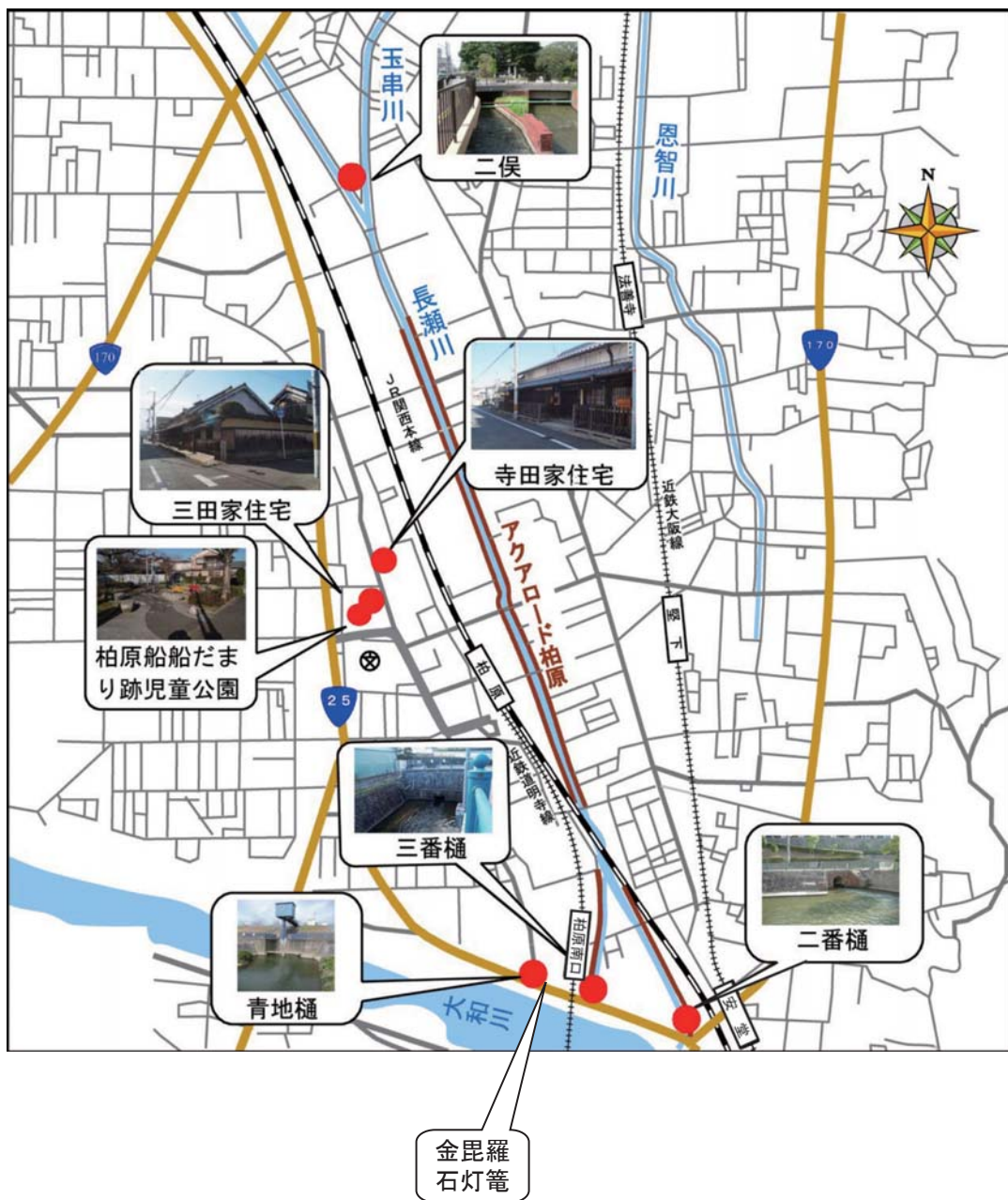
柏原ルートマップ。



散策ルート



・ ・ ・ ・ 足をのばせば ・ ・ ・ ・



安中新田会所跡 旧植田家住宅を訪ねる

J R大和路線八尾駅から線路沿いに柏原方面へ少し歩くと踏切があり、そのすぐ横に古い建物が見えてきます。大和川のつけかえ後に開発された安中新田^{やすなかしんでん}の会所の跡であり、会所の支配人を長く務めた植田家の屋敷を引き継いだ建物です。

会所というのは、新しく開発された新田の事務所であり、安中新田ではその会所と支配人の住宅となっていました。



安中新田会所跡旧植田家住宅の入口

屋敷の建物のうち、主屋と1つの土蔵が江戸時代後期のもので、主屋の土間が会所当時の姿をとどめていると言われています。植田家の住居になった後に、明治、大正時代に何度か改修があったようです。

植田家には、江戸時代の古文書から戦後まで使われていた生活道具や調度品などが保存されていて、昔の暮らしの博物館となっています。展示室の床面に原寸大で展示されている1711年の「安中新田^{ふんけんえす}分間絵図」は、新田の土地の様子や会所の場所が分かる貴重な史料です。



旧植田家住宅の入口 主屋の土間

大阪府下に残る三会所

大阪府下には、江戸時代後期に建った会所の建物が3か所残っています。安中新田会所跡旧植田家住宅と東大阪市の^{こうのいけ}鴻池新田会所、大阪市住之江区の加賀屋新田会所三会所で、様々な交流行事が行われています。大東市の平野屋新田会所も建物は取り壊されてしまいましたが、一部の敷地が市によって買い戻され、市民ボランティアと共に、新田や会所の研究が進められています。

かわちもめん

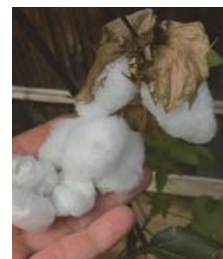
河内木綿の復元に取り組んだ故寺尾和一郎さんの道具や作品も展示

春から秋にかけて会所を訪ねると、子どもたちや住民による、在来種の河内棉^{かわちわた}の栽培が見られます。7月の中頃から8月のお盆の頃まで、きれいな黄色の花が咲いています。8月の中頃から9月にかけて、白い綿の実がはじける様子が見られます。



寺尾さんが遺された河内木綿の道具や糸・織物等の製品

大和川つけかえ跡の新田は砂地で水はけがよく、米より棉作りに適していました。手間や肥料がかかっても、棉は米より収入がよく、一帯は棉の栽培と河内木綿の製造で栄えました。



わたの花と実

外国産の安い綿布が普及し途絶えていた河内木綿を復元したのが、寺尾和一郎^{わ い ち ろ う}さんです。

八尾で栽培されている河内わたの種は、寺尾さんが種や綿作りの道具を探し出し、自分の田をわた畑にし、そのわたを使って糸をより、木綿を織り続けてきた種から始まったものです。

八尾コースの始めに「安中新田会所跡旧植田家住宅」を見学されることをおすすめします。

安中新田会所跡旧植田家住宅 休館日 火曜・祝日の翌日・年末年始

開館時間 9時から17時 観覧料一般200円 中学生以下無料

〒581-0084 八尾市植松町1丁目1番25号

TEL&FAX 072-992-5311

※駐車場がないので公共交通機関を利用して下さい。

寺尾さんのわた作りは、**八尾市立歴史民俗資料館**（八尾市千塚3-180 ☎072-941-3601 近鉄服部川駅^{はっとりがわ}から北へ約600m）の棉畑に引き継がれ、わたくりや糸車の体験も行われています。毎年9月の中頃の休日に「河内木綿まつり」が行われ、多くの人でにぎわいます。



八尾市立歴史民俗資料館と棉畑

安中町5丁目公園とアクアフレンズ

長瀬川は昔の大和川の本流だった

長瀬川は長さ 14kmの農業用水路で、今も大和川の水が流れています。

大阪府は関係市と築留土地改良区の協力を得て、1993 年～2009 年にかけて安全なまちづくりと緑あふれる水辺環境づくりをめざして改修工事をしました。

長瀬川の改修工事から6年目の1999 年からはアクアフレンズなどの市民団体も協力した植栽による「水辺環境づくり」活動が東大阪市から始まりました。

子どもたちといっしょに緑を復活

2000 年には、八尾市でもコンクリートの川底の一部にヤシガラマットが敷設され、アクアフレンズも協力して小学生と一緒に水生植物を植えました。その後毎年初夏に水生植物を植え、秋に収穫しています。

秋の水辺まつりでは、シュロガヤツリを使ったコースターやジュズダマを使ったお手玉やブレスレット作りなど、水生植物を利用した工作や、Eボートの乗船などが人気です。

水生植物は緑の景観とともに水質改善の効果もあって生き物が増え、環境学習の場としても活用されています。

緑ゆたかな安中町5丁目公園



公園の遊歩道
緑や紅葉が楽しめます

J R 八尾駅から徒歩5分、長瀬川と一体となって整備された親水公園です。大雨の際には一時的に水を溜める構造になっているため遊具はありません。

公園の維持管理は、地域のボランティアさんや様々な団体がお手伝いをされ、四季折々の花が楽しめます。



水路でEボートを体験



水路で育つ水生生物

大和川と八尾の川をきれいにしたい……アクアフレンズの活動

アクアフレンズは、八尾市生活排水アドバイザー経験者が中心になって 1996 年に設立した市民グループです。市内には、元の大和川だった玉串川と長瀬川からの農業用水路が多く残っています。

身近な水路には、すぐに水が使える・水辺に親しむ・生き物を育む・風の通り道・温度を下げるなどの利点があると考え、小水路の再生と活用を考え、活動しています。

水路の多面的利用のために 2002 年と 2010～11 年度に農地を確認しながら水路の状況調査をしました。災害時にも利用でき、まちづくりにいかしていくための情報を市民と行政が共有してほしいと願っての取り組みでした。成果はCD・Rで学校や図書館に配布しています。大和川つけかえの学習にも活用されるよう、大和川歴史研究家・中甚兵衛 10 代目の中九兵衛さんの解説も収録されています。



水路調査の成果をわかりやすく伝えています



小学生と一緒に水生植物を植えました

八尾コミュニティ放送の「FMちゃお」で第3月曜 12:00～19:00～23:00～「くらしを科学する」の番組を担当し、各地の川づくり、まちづくりに活躍する人達の活動を紹介しています。毎年発行「アクアだより」には市内の子どもたちから大和川市民ネットワークの活動、タイやベトナムなどとの国際的な交流まで、幅広い活動が紹介されています。



まちにうるおいとやすらぎ 成法せせらぎの小径

八尾市のあちこちで、歩道の脇にきれいな水路や季節の花木を見かけます。

「成法せせらぎの小径^{こみち}」の正式名称は八尾第 220 号水路で、2008 年八尾市制60周年記念事業として実施された水路再生事業です。商工会議所の西側に記念の石碑や銘板が設置されています。



水路で生物調査

成法のせせらぎは、安中町5丁目公園の南端近くに設置されている心太樋^{ところてん}から取水した長瀬川の水が八尾小学校付近まで流れています。

1996 年～2007 年にかけて少しずつ整備され、約 1 kmほどの散策水路になっています。2013 年からは竜華水みらいセンター^{りゅうげ}の下水高度処理水も流れています。

農業用水の多くは、埋めたり暗渠^{あんきょ}にされたりしていますが、八尾市では都市の大切な空間として活かされています。石積み護岸や深溜まり^{ふかだ}など、生き物に配慮した水路になっているため、見た目以上に様々な生き物がすんでいます。

バス通りから 1 つ東側の細い裏通りですが、四季の変化を感じながらの通勤や通学、散歩の道として親しまれています。夏には、子どもたちがやってきて、小さな生きものとふれあっています。自然観察学習の場にもなり、都市部のヒートアイランド対策としても、注目されています。



水路の清掃活動



小径は安心して歩けます。



小径の表示ポール

大和川の堤防だった八尾高校の狐山

八尾高等学校に^{きつねやま}狐山と呼ばれる高さ 5.3m、幅 33mの小山があります。旧大和川左岸の堤防または堤防が決壊した時の補修用の土置場の跡だと考えられています。

2004 年に狐山をボーリング調査し、地表下 2.42mから長さ 6 cmの釘が見つかったため、人工的に盛土されたものだとわかりました。

戦争中は「^{ばんざいやま}万歳山」

八尾高校は 1895 年、慈願寺内に大阪府立第 3 尋常中学校として開校。1901 年に現在地に移り、府立八尾中学校となりました。1916 年大正天皇の即位式記念に万歳山と改名されて碑が建てられました。戦争中は学校に軍隊が駐留し、万歳山が軍事教練の射撃の^ま的受けとなり、頂上に 20cm 高射砲、校舎の上には 10cm 高射砲が置かれていました。戦後、高射砲は解体されて狐山に埋められました。1975 年の創立 80 周年記念に土留めの石垣がつくられました。

住民や八尾高生・ 卒業生に愛されている狐山

八尾高校の P T A 会報は「^{こりょう}狐陵」とネーミングされ、1975 年頃住民が手を合わせてお参りに来ていたと紹介しています。同窓会は、2004 年大和川つけかえ 300 周年を記念して「平成の狐山」再生事業に着手。チョウの舞う自然をめざし、2012 年に三角点（北緯 34° 37' 23" 東経 135° 35' 40" 標高 15.849m）、2013 年には丸太階段を増設しています。



八尾高校中庭の狐山 冬と春

久宝寺の船着場

長瀬川は1704年の大和川の付け替えまで大和川の本流で、川幅は約200mもあり、剣先船が米や物資を運んでいました。つけかえ後は両岸が埋め立てられ、川幅約10mほどの農業用水と村の水路となり、久宝寺船着場と八尾浜が造られました。

八尾街道が長瀬川を渡る所に本町橋があり、昔は「土橋」と呼ばれていました。1872年の記録によると、長さ5間5尺(約10.5m)、幅8尺(約2.4m)の木の橋に土をかぶせた「土橋」が架けられていました。

橋の長瀬川左岸に、久宝寺船着場の常夜灯と



本町橋と右岸・八尾浜の常夜灯



長瀬川左岸の常夜灯
許麻神社御旅所跡

道標と許麻神社の御旅所が広場として残され、神輿を安置する石台がありました。交通の要であったため、高さ153cmの大きな道

長瀬川・本町橋の道標			
○右	かしわら国分	せわ人明石	
○北左	すく信貴山道	一ツ森庄吉	
○右	大坂直く	ひらの	
○すく玉造道	天王寺		
石明主願	米屋平三郎		
今津屋藤兵衛	谷屋喜右衛門		

標が立ち、5つの方向が深く彫りこまれています。

明石の人が建て、人と物の行き来が広範囲だったことがわかります。

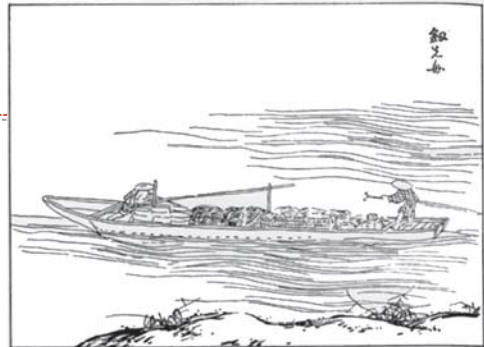
久宝寺寺内町の顕証寺の1721年の検地帳には、「年貢積出しの場並びに村中荷揚場」として1畝13歩(約43坪)あったと書かれています。

柏原船と剣先船

柏原船は、了意川（平野川）を利用した川舟の輸送機関です。1636年に幕府（大坂町奉行所）に認可を受け、1640年には大坂の商人が参加するなど、了意川を利用した舟運を独占的に行い栄えました。しかし、1781年頃にはすたれていきました。

一方、つけかえ前の大和川を利用した川舟は、船の先が剣のようにとがっていたので、剣先船と呼ばれました。柏原船と同じように浅い川を通るために底の浅い船でした。剣先船も1638年に大坂町奉行所に認可を受け、1675年には大坂の大商人の所有の船も新剣先船として参加し、つけかえ前の大和川の舟運として栄えました。しかし、大和川つけかえ後は大坂京橋に出るのが遠回りとなり、廃れていきました。

その他、荷物を輸送する船ではありませんが、若江郡などの村用や渡船用としての在郷剣先船や、つけかえ後の井路を利用する井路川剣先船などもありました。



剣先船 「布施市史」より

大和川を運航していた船

	柏原船	剣先船	魚梁船（やなぶね）
運航していた地域	大坂京橋や平野郷と柏原村の間	大坂京橋と亀の瀬や富田林村の間	亀の瀬と大和の各地の間
運んでいた荷物	大坂へ……米、油、綿、醤油 大坂の中心から各地の村へ……干鰯 ^{ほしか} などの肥料、塩、炭	大坂の中心から大和各地へ……干鰯などの肥料、塩、炭、砂糖、紙、酒、瀬戸物など	大和各地から大坂の中心へ……米、小麦、雑穀、綿、菜種油、そうめんなど
船の大きさ	長さ約 14m 幅約 2 m 荷の重さ約 1500kg	長さ約 22m 幅約 2 m 荷の重さ約 3000kg	長さ約 15m 幅約 1.5m 荷の重さ約 1000 kg

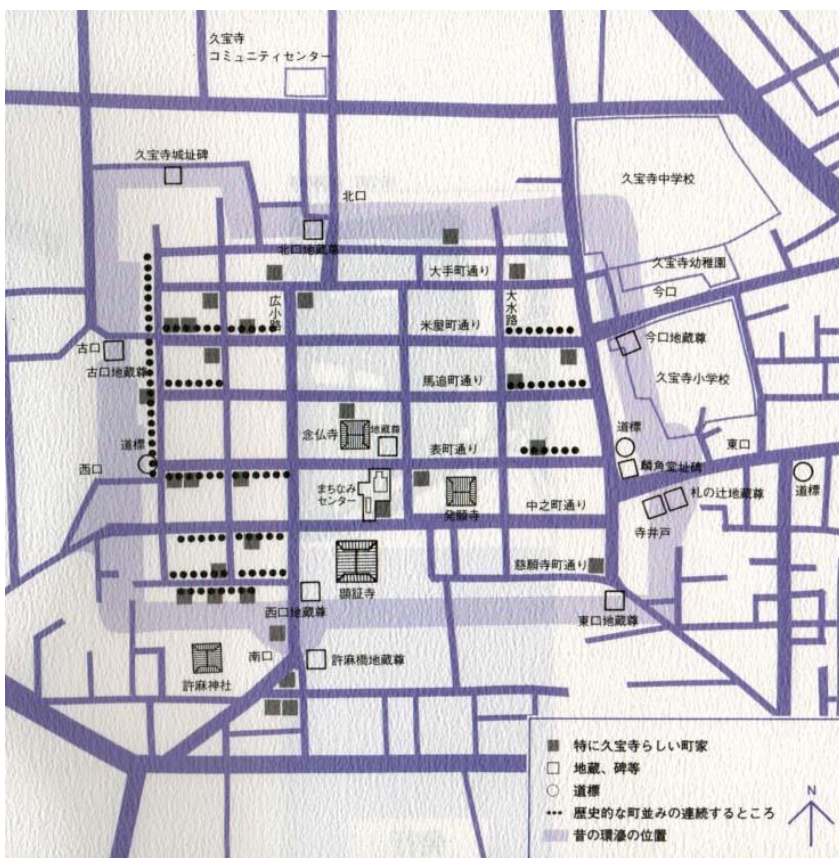
久宝寺の寺内町を歩こう

顕証寺交差点を西に進むと、久宝寺寺内町に入ります。道路が碁盤の目のように通り、虫籠窓や煙出し、税のある民家など江戸時代の風情を残した東西約480m、南北約370mの街並があります。各家に門がなく、浄土真宗本願寺派の顕証寺を中心に戦国時代からの自治都市の面影がしのべれます。

本願寺第8代蓮如(1415~1499)が、河内久宝寺で布教し、「帰するもの市の如し」と『大谷本願寺通記』に書かれています。土豪安井氏と

慈願寺の協力で、1479年に西証寺を創建し、後に顕証寺と名を改めました。1541年頃に、この御坊を中心に久宝寺寺内町が誕生しました。

寺内町は室町幕府から守護大名の支配から独立し、租税を免除されていたため、商工業者が多く集まり、今の大阪城の石山本願寺や旧大和川の水運を利用し萱振、富田林等の寺内町を結んで流通経済の中心になりました。



八尾寺内町案内マップ (八尾市発行パンフレットより)

久宝寺寺内町の歴史の遺産継承と八尾市のまちづくり拠点八尾市まちなみセンター(寺内町ふれあいセンター)でくわしく学習できます。ホームページ: kyu-machinami.or.jp
(八尾市久宝寺3丁目3番20号 TEL072-924-6371)



久宝寺寺内町は、天王寺、平野を通り大和に通じる八尾街道が町中を通り旧大和川に近いため、経済と信徒衆の拠点となりました。自衛の為、旧大和川から水を引いた二重の濠と土塁(土居)を巡らし、町の6ヶ所の入口に木戸と番所を置いて防衛を固め、道路も軍兵が直進できないように丁字路にしていました。

寺の領国支配を否定し、本願寺と各地の一向宗寺院を攻撃し、一向一揆の根絶をめ

寺内町を通った八尾街道
 八尾街道の八尾側の入り口、
 東口にある道標は文政八年の建立。
 ○右 和州信貴山
 ○左 八尾地藏尊
 大坂平野道



ざした織田信長は、1571年には延暦寺を焼き討ち。天正8年(1580)には本願寺宗主顕如と信長が和睦。顕如は本願寺を退去しました。翌年、信長は久宝寺寺内町の支配権を安井清衛門定次に与え

ました。信長と本願寺宗主顕如との和議に反対して抗戦し続けた長男の教如についた人々は慈願寺と共に八尾に移り、東本願寺派の大信寺を創り、新田開発をし、綿花で繁盛しました。

顕証寺も1721年に新田を拓き、綿花と肥料とする菜種を栽培し経済力をつけました。綿作は米の3倍の収入があり、久宝寺木綿を商う商人や職人が住む久宝寺寺内町の繁栄が続きました。道頓堀を掘削中に大坂夏の陣で戦死した安井道頓は、久宝寺の安井一族と伝えられています。

住民の命の水源・寺井戸跡と久宝寺名物 帯喜太[あん巻]

幕末に呉服屋だった創業者が始めた帯喜太のあん巻は和製クレープとして有名です。店の隣の寺井戸は、寺内町の地下水がよくなかったために造られた井戸です。長瀬川埋立地の顕証寺新田に井戸を掘り、竹樋で約500m引いていました。人々は飲料水に使い、1年に米1升を顕証寺に納めました。



顕証寺・表門(山門)



寺内町をめぐる濠の跡

・・・足をのばせば・・・

竜華水みらいセンター



竜華水みらいセンター管理棟



地下の下水処理施設

J R久宝寺駅の南に大阪府が建設した下水処理場、^{りゅうげ}竜華水みらいセンターがあります。

八尾市と柏原市の下水を処理する施設で、最先端技術を駆使して作った処理場です。完全地下式で、一見、下水処理場とは見えません。

工事は2000年に着手し、約520億円かけて2010年11月に完成し供用開始をしています。

1日約69,000 m³の下水を処理しています。処理方式は、「生物学脱りん+ステップ流入2段硝化脱窒法+生物膜ろ過法」で、有機物、汚濁物質・窒素・りんを除去して、処理水として放流しています。

処理水はBOD 1 mg/L以下で非常にきれいです。そのため、処理場の周辺の水路や、長瀬川の浄化用水、八尾市内の水路のせせらぎ用水として利用されています。

発生した^{げすいおでい}下水汚泥は、長瀬川沿いに配管されたパイプを通してポンプで圧送されており、約8 km離れた、東大阪市内の^{かわまた}川俣水みらいセンターで焼却されています。そのため、竜華水みらいセンターには汚泥処理施設はありません。

敷地面積は4.2ha。処理場の上にはスーパー万代、スポーツクラブなどがあり、多くの人でにぎわっています。



竜華せせらぎ緑道



水みらいセンターの上の商業施設

水みらいセンターの南側には、処理水を利用した、せせらぎ水路と散策路、「竜華せせらぎ緑道」があり、散策をしながら、四季おりおりの花を楽しむことができます。

※竜華みらいセンターの日常の見学はできません。

事前に大阪府東部流域下水道事務所に申し込んでください。

住所:577-0063 大阪府東大阪市川俣2丁目1-1(川俣水みらいセンター内)

☎06-6784-3721

※「竜華せせらぎ緑道」は自由に散策できます





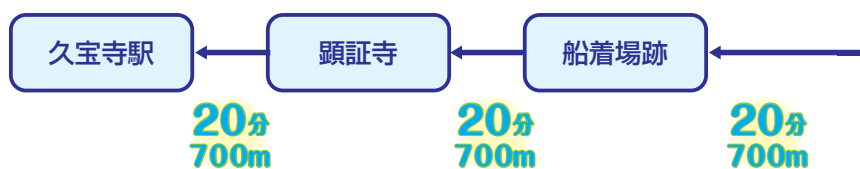
安中新田会所跡 旧植田家住宅



八尾高等学校狐山



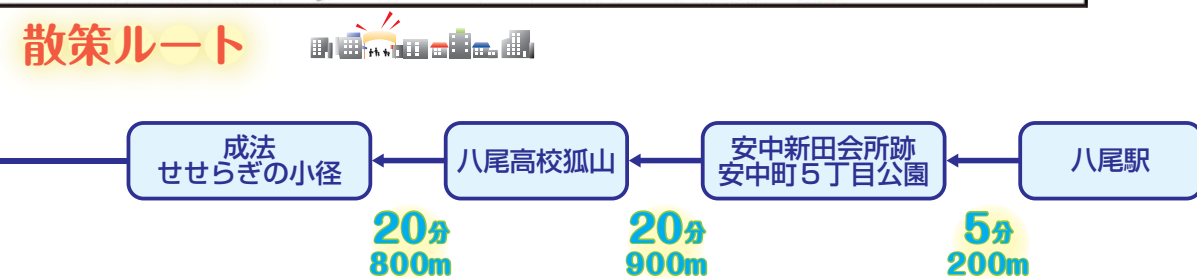
久宝寺寺内町 顕証寺



ルートマップ。



散策ルート





大和川つけかえの史跡探訪ガイドブック編集委員会

生田隆史 河内晴彦 木村淳弘 黒田伊彦 小西照夫
小松清生 澤井健二 谷 幸三 辰谷直子 西林利裕

協力者 柏原市立歴史資料館 八尾市まちなみセンター
八尾市立歴史民俗資料館 安中新田会所跡旧植田家住宅
彼谷利彬 中九兵衛 美濃原弥恵 安村俊史

2017 年 3 月 編集・発行 2025 年 5 月 第 2 刷

大和川市民ネットワーク

☎08024442098

この本は（一社）近畿建設協会の助成を得て作られたものです。